

倫理 授業 No.4 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

ソフィストの功罪とは？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書P. 29・30の中から見つけよう！

哲学の対象は、やがて自然から人間や社会へと移った。民主政治が発達した（ 1 ）などのポリス（都市国家）では、民会で人びとを説得するために弁論術を身につけることが必要とされた。紀元前5世紀頃になると、報酬をもらって弁論術を教えるソフィストと呼ばれる（ 2 ）たちがあらわれた。ギリシア各地を遍歴したソフィストは、法律や道徳は国や民族によってさまざまであり、絶対的なものはないという（ 3 ）の立場をとった。その代表である（ 4 ）は、「人間は万物の尺度である」と述べ、ものごとの善悪を判断する基準は、一人ひとりの人間の感じ方や考え方にあると主張した（人間中心主義）。

ソフィストの思想は、人びとを過去の因習や権威から解放する一方で、個人の判断を絶対視するあまり、ポリスの人びとに共通する法や（ 5 ）など、普遍的な真理や価値の否定につながった。やがて、ソフィストたちは、弁論で相手に勝つことだけを目的にした、こじつけの弁論術（詭弁）におちいった。その結果、ポリスの人びとを結びつける法や（ 5 ）が無視され、個人の自己中心的な考え方を許す風潮が生まれ、ポリスの基盤がゆらいでいった。ソクラテスは、大切なことは「どれだけ生きるか」ではなく「いかに生きるか」であると説いた。そして、「汝みずからを知れ」をモットーに、人の魂をすぐれたものにする知恵・勇気・正義などの徳とは何かについて思索し、人間としての善い生き方を追究した。

<キーワード記入欄>

1 () 2 () 3 ()
4 () 5 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T. Q. 「ソフィストの功罪とは？」

T. A.

紀元前5世紀の都市国家[①]全盛のころ、「知恵ある人」としてソフィストと呼ばれる人々が活躍した。彼らは[②]的で[③]的であり、金もうけを目的とした“政治屋”が生まれる原因となった。また、代表的ソフィストの[④]は各人の考え方（価値判断）を肯定したので、それぞれの[③]が衝突するようになった。しかし、そのおかげで弁論術が発達し、[⑤]的の思考が発達した。

<記入欄>

① [] ② [] ③ []
④ [] ⑤ []

[]年 []H No. [] 氏名 []